

総務課

功績をたたえる

令和元年度「庄原市ふるさと功労賞」授賞式



左から大原副市長、木山市長、藤井さん、牧原教育長

7月3日、市役所本庁舎市長室で令和元年度「庄原市ふるさと功労賞」の授賞式を行いました。当日は、文化功労を受賞した藤井岑雄さんに、木山耕三市長が表彰状と記念品を贈呈しました。

藤井さんは、旧東城町の職員として、町史の編さんを中心となって携わり、全6巻を刊行しました。その知識を生かして、合併後は庄原市文化財保護審議会委員として14年の永きにわたり活躍し、平成29年度からは会長として、資料調査から指定まで献身的に尽力しました。

また、市内の古文書の保存活用に対し豊富な見識で指導し、新坂自治振興区事務局長および会長を歴任するなど、地域歴史資源の保存活用のために活動してきました。

当日欠席した阿弔雄一さんには、後日、表彰状と記念品の贈呈を行いました。阿弔さんは、社会功労を受賞しました。

阿弔さんは、西城病院院長となった後、医療と保健の連携の重要性に着目し、昭和53年6月から全西城町民を対象に、誕生月を基本とする健康診査「誕生日健診」を始めました。結果、西城地域住民の健康づくりへの意識が大きく向上することになりました。

阿弔さんは、多忙な中でも高齢者などの往診に出向き、一人一人を尊重した医療を行い、住民からの信頼が厚い「まちの開業医」として、半世紀以上の永きにわたり、住民の暮らしを支えてきました。

2人のこれまでの尽力と本市への多大なる貢献に心より敬意を表します。



阿弔さん(右)と妻の方壽美さん

比和支所

新種名に“ヒバゴン”にちなんだ学名を命名

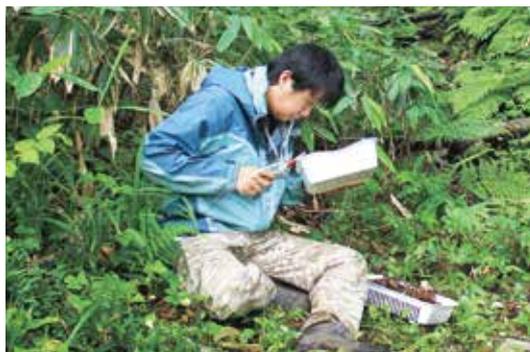
比婆山新種昆虫発見・市民研究者チャレンジ展示

比和自然科学博物館が実施した比婆山連峰の甲虫調査において、独自で昆虫分類の研究を行っている、市職員の千田喜博さんが新種の昆虫を発見しました。

この新種の昆虫は「ハネカクシ」の一種で、昆虫の発見場所の「比婆山」とその周辺に出没したといわれる「ヒバゴン」にちなみ、「和名・ヒバヤマヒメコバネナガハネカクシ」、「学名・ラトロビウムヒバゴン」と命名され、日本昆虫分類学会誌で新種として正式に発表されました。

このことを受け、比和自然科学博物館は「市民研究者チャレンジ展示」の第1回目

として、9月30日まで新種の昆虫の展示発表を行っています。貴重な模式標本も展示していますので、この機会に比和自然科学博物館へお越しください。



新種の昆虫を発見した千田さん

ヒバヤマヒメコバネナガハネカクシ
(ラトロビウムヒバゴン) ※拡大写真